

左: 経済評論家  
**伊藤 洋一 氏**  
時事通信社を経て住友信託銀行入行。三井住友トラスト基礎研究所主幹。

中: ファイナンシャルプランナー  
**北野 琴奈 氏**  
国際ライセンスCFP取得。自ら金融・不動産を含めた資産を形成・運用中。

右: 年金博士  
**北村 庄吾 氏**  
社会保険労務士・行政書士・FP。年金・医療保険等の社会保険制度に詳しい。

日経ビジネス にも掲載!  
<http://business.nikkeibp.co.jp/as/oooooo>

◆スペシャリストが語る

# 経済と将来設計の先を読む

世界経済の動搖は収まる気配はなく、日本経済は長い低迷から脱せずにいる。雇用や公的年金制度などライフプランの根幹部分さえ揺らぎ、先行きへの不安が日ごとに増すこの時代を、私たちはいかに生き抜けばよいのか。経済と将来設計のスペシャリスト3氏が語り合った。

## 不安な時代の自己防衛 長い老後を見据えた投資を

**北村** 1989年に50兆円弱だった医療・年金・介護の社会保障関連費は2008年に100兆円近くに膨らみました。将来、年金制度が行き詰まるのは明らかで、社会保障費も削減されていくはずです。国と会社が守ってくれる時代は終わり、自己防衛の時代に突入しました。

**北野** 将来設計で大切なのは、国のルールに左右されないようにリスクを分散して資産を守り、形成すること。そこで投資は有効な手段となります。投資で重要なのは過不足ないこと。まずは、ライフプランをしっかり見つめ直したいですね。

**伊藤** 45歳くらいで夫婦一緒に、何歳まで正社員でいられそうか、子供に今後いつまでいくらかかるか、本当に今の保険が必要かなどを改めて考えるといいと思います。そのうえで、社会の常識を見つめ直すと、将来設計のあり方が見えてくるはずです。ところが、漠然とした不

安だけを募らせてばかりで、保険はなるべく厚く、できるだけ預金をしようと焦っている人も多い。

**北村** 先日の講演会では、上場企業勤務の55歳以上200人のうち、なんらかの投資をしていたのはわずか10人。毎月の保険料を答えられたのはさらに少數です。住宅の次に高い買い物といわれる生命保険に安易にお金を遣い、資産は預金で放置では自己防衛はできません。最低限のマナーの知識は押さえたいところです。

## 人口減少が加速する今後は本格的な利回りの時代に

**北野** 人口が減少に転じ、大きな経済成長も期待できない今後は、資産形成・運用において、長期的視野がより重要になると思いますが、どうお考えですか。

**伊藤** 1945年に7300万人だった日本の人口は現在1億2800万人。戦後の高度経済成長はむしろ異常であり、今後は人口減少とともに、資産や商売のあり方は大きな人口増加がなかった江戸

時代のような状態に近づくでしょう。キャピタルは値上がりしないので、配当や利息、家賃収入が重要性を高める。つまり、利回りの時代になっていくはずです。

**北村** 個人的には株式と為替に、停滞商状の時にあえて投資してきました。その際、やはりインカムゲインを重視して投資先を選んでいます。日々の収入を読み込めるうえ、結果的に値上がりも期待できるかもしれない、という考え方です。

**北野** 2006年頃まで1%で推移していた東証1部平均利回りは現在2%超ですから、市場にもインカムゲイン重視の傾向が反映されています。リーマンショック以降、不動産に投資する個人が増えていますが、これも利回りで着実にリターンを得る投資スタイルが好まれる傾向にあることを示していますね。

**伊藤** 時代は投機から投資へ移行しています。本質的な経済発展に必要なのは、短期的な勝ち負けの投機ではなく、長期的に成長していくための投資。これは個人の将来設計にも当てはまる重要なポイントだと言えるでしょう。 A

f Visionary(ビジョナリー)

3人のコラムを連載中

<http://www.facebook.com/Visionary.Magazine>